

けんけんほっとライン

せいぎかい

発行 2011年1月

民主党・無所属の会 草加支部
(支部長 山川百合子 県議会議員)

5つの **気** で頑張ります! **元気!** **本気!** **やる気!** **勇気!** **根気!**

だれもが大切にされる社会

新年のお慶びを申し上げます。

2011年は課題山積の中で新しい年を迎えました。国では、税制と社会保障のあり方が議論され、政権交代にかけられた国民の期待に現政権が応えていられるのか、国民が希望を持てる国づくりができるのか、大きく問われています。

「だれもが大切にされる社会」をつくりたい。新年を迎え、あらためてこの想いを強くしています。社会全体が閉塞感につつまれる中で、雇用の確保、教育・福祉・医療サービスの充実、まちづくりなど、あらゆる分野でひとりひとりが大切にされる社会の実現をめざして、目の前の課題にひとつひとつ取り組んで参ります。

埼玉県議会議員 山川 百合子



埼玉県議会議員 民主党・無所属の会 草加支部 支部長

山川 百合子

経歴 ●1969年草加市生まれ ●草加小・中～恵泉女学園高～同大学卒～英国イーストアングリア大学～ハル大学院修了(東南アジア研究・修士)
●NPO法人ピースウィンズ・ジャパンで国際人道支援、インドネシアに長期滞在 ●2003年、自分の足元の事に携わろうと県議選に挑戦。現在2期目 ●民主党女性議員ネットワーク会議メンバー ●2010年結婚、夫と義母の3人暮らし。

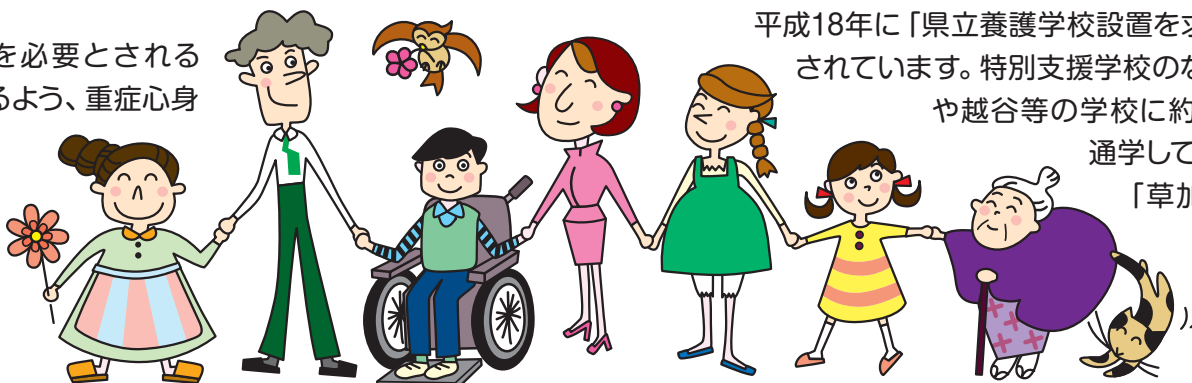
障がい児・者 入所施設の整備を!

国の削減方針見直しを求めます

障がい者の生活支援の流れは、「脱施設」化。ノーマライゼーションの理念のもと、施設入所よりもできるだけ地域で生活できるようにしていくというものです。私もその理念に賛同し、また、地域生活の支援を充実させることを求めてきました。

しかし一方で、真に入所施設を必要とする方が、入所できずに待機しているという現状があります。「一律に入所者数の削減目標を掲げ、障がい者入所施設の新たな整備を原則的には認めない」という国の方針には違和感を覚え、国に働きかけると共に県としての対応を求めてきました。

県は、真に入所施設を必要とされる方々のニーズに応えられるよう、重症心身障害児・者施設の整備に努力すること、そして整備方針の見直しを強く国に求めていくことを答弁し、約束させることができました。



県立特別支援学校を 草加市 に

旧花栗小学校の跡地利用

県立の特別支援学校を草加に設置してほしいという強い要望が、かねてから草加市民の方々から寄せられていました。草加市議会からも平成18年に「県立養護学校設置を求める意見書」が県に出されています。特別支援学校のない草加市からは、三郷や越谷等の学校に約140人もの児童生徒が通学しています。

「草加に特別支援学校を!」の声の早期実現に向けて、引き続き取り組んでいます。



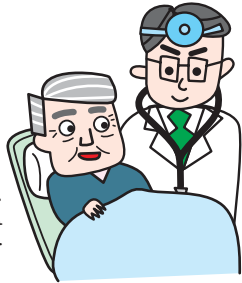
安心の医療へ向けて 引き続き取り組みます

安心の医療とは、必要な医療環境の整備と合わせて、その周辺環境の整備を進めてこそ実現します。

先進医療が受けられる 環境整備を提言

医療体制の整備とサービスの充実については、「だれもが大切にされる社会」づくりのための一貫したテーマのひとつとして、取り組んできました。

新生児集中治療室(NICU)の増床をはじめとする赤ちゃんと妊婦を守る医療サービスの向上や、県立がんセンターの建替え事業における重粒子線療法などの先進医療への対応、医師・看護師の確保・養成など、医療環境の充実に関する提言を続けています。



医療周辺の環境整備も大切に

先進医療が受けられる医療環境の整備と併せて、医療周辺の環境整備についても取り組んできました。

がん患者が生き生きとがんと立ち向かうために、様々なかたちの緩和ケアを提供するよう県に求めてきました。また、社会全体で妊婦を大切にするために、マタニティマークを普及させ、県内鉄道事業者に優先席を設置して頂きました。



草加市立病院新医療センターへの 助成を要望中

埼玉県東部の地域医療支援病院として、ますますその役割が大きくなりつつあるのが草加市立病院です。草加市のみならず、圏域住民の命と健康を守る使命を担う新医療センターの建設に対する財政支援について、県議会「民主党・無所属の会」では、上田知事に対して予算要望しています。市県が連携する可能性を常に考えています。

中学校卒業までの医療費無料化 (草加市長公約)実現に向けて

田中新市長の公約には、「中学校卒業までの医療費の無料化」が掲げられています。財政状況が厳しい中で財源の確保が課題ですが、これと合わせて、レセプトなど、地元医師会や関係機関との調整に協力し、早期実現を模索していきます。



DV被害者を救うために

ドメスティックバイオレンス(DV)。女性の場合は5人に1人、男性では約10人に1人がDVの被害を受けているという数字もありますが、DVは身近に存在していても、支援の手を差し伸べにくい分野です。客観的には改善が必要と思われる深刻な関係であっても、ご本人が「自分自身を大切にしよう」というところに立てないケースも少なくありません。

悩み苦しんでいる方が気軽に相談ができ、適切な支援や保護につなげることが重要です。県では相談窓口を複数設置していますが、電話がつながりにくい状況が懸念されたため、自動音声ガイダンス導入などの改善を実現していただきました。



- 相談窓口**
- With you さいたま 相談専用ダイヤル **Tel. 048-600-3800**
 - 婦人相談センター DV相談室 **Tel. 048-863-6060**
 - けいさつ総合相談センター **Tel. 048-822-9110**

コラム

犬・ねこの命を救おう!!

県内の保健所などに収容され殺処分されている犬や猫の数は年間(H21末)約5800匹。私が参加する「埼玉県議会動物と共生する社会を推進する議員連盟」では、犬や猫の命を少しでも多く救おうと県の対応を求めました。議連の要請を受け県では、譲渡動物専用の飼育施設を建設。これにより救える命が大幅にアップすることが期待されています。

譲渡希望の問い合わせは…

- 埼玉県動物指導センター
Tel. 048-536-2465
- 埼玉県動物指導センター 南支所
Tel. 048-855-0484



フェアトレードで 「だれもが大切にされる世界」を!

フェアトレードの推進は、「だれもが大切にされる社会」に向けた取り組みのひとつです。国際社会における貿易には不公正な関係があちこちに存在します。私たちの生活の中にある様々な「もの」。そのものを生産している人たちが、生活もままならない低賃金で働いていることも少なくないのです。こうして貧困の問題はグローバルに広がっていきます。

「フェアトレード」とは、生産者に適切な賃金を支払い、消費者もそのことを理解し多少価格が他のものよりも高くとも、むしろ適正な価格として理解します。フェアトレードの代表商品とされるのがコーヒー。

私は以前、東チモールのコーヒーをフェアトレード商品化するためのプロジェクトに携わっていました。埼玉県でも、フェアトレードについての理解と普及に積極的に取り組むよう働きかけています。

フェアトレードについて 理解を深めるための 講演会を開きます

日時 平成23年2月20日(日)
13:00~16:30

場所 国際交流基金日本語国際センター
ホール(JR北浦和駅西口 徒歩7分)

お申込み・お問い合わせ
(財)埼玉県国際交流協会
Tel. 048-833-2992
先着200名(申し込み順) 入場無料

下記よりパンフレットをダウンロードできます

<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/tabunkakyousei/kouen-koukensyou.html>



意見・ご要望をお寄せ下さい



メールや電話、ファックスにて、お気軽にご連絡下さい。

民主党・無所属の会 草加支部 支部長 山川 百合子
〒340-0012 埼玉県草加市神明1-2-31
Tel: 048-927-0131 Fax: 048-927-0353
<http://yamakawa-yuriko.jp> E-mail: info@yamakawa-yuriko.jp

県議会控室(議事室内)
〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3丁目15番1号
Tel: 048-833-1710 Fax: 048-833-1722
埼玉県議会民主党・無所属の会HP <http://www.minsyu.info/>